

正しい労働対価

令和7年2月3日

黒田インターナショナルコンサルティング LLC

黒田 毅

労働への正しい対価は、企業経営の健全性を可能とする現実である。これらは、企業の公正さが正しい労働意欲を与え、正しい企業経営の確立を実現できるものである。

これらは、給与体系における新しい視点であり、企業の利益への貢献と労働への正しい対価の構築は、企業経営の健全性と企業の永続への正しい現実を与えるものである。

これら健全な労働意欲の形成は、正しい企業倫理性における資本の分配を基盤とした企業経営の構築を実現できるものである。

これらが競争という現実における企業でなく、自己社会における経営という、企業文化の育成を与えることができるのである。

これらは経営チームにおける正しい対価は、企業の永続と維持運営への対価を有するものである。他方において、勤労性における労働への正しい対価の提供も求められるのである。

これらは必要性への資本供与と倫理的な判断における富の分配という企業の必要性である。

これら、正しい富の分配が、唯一正しい労働意欲の形成を与え、企業経営の健全性の実現を可能とできるのである。

これが公正な企業経営の確立であり、企業経営の健全性の実現なのである。正しい意欲は公正さと健全さにおいて、最も優れた企業構築を実現できるのである。

これら正しい意欲は、創造性を生むものである。今日においてはそれは企業における大きな必要性なのである。

これらは正しい企業倫理性という経営の結果であり、それら優れた企業文化と風土は未来という新しい現実への可能性を有するのである。

これらすべての経営判断における結果である。経営者の判断がこれらの現実化を可能とできるのである。